

講義科目 : 国際関係論	単位数 : 2
担当 : 三瀬 貴弘	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

<講義内容>

- ・国際関係論は、世界情勢を政治経済だけでなく文化歴史から幅広く分析する学際的かつ身近な学問である。講義では、隣接学問領域の研究成果をふんだんに取り入れつつ、現実の国際問題の分析と、現実をよりよく理解するツールとしての国際関係論の諸理論を勉強し、最終的に、IPE（国際政治経済学）が、冷戦後の国際秩序に与えた影響、日米関係の現状について考察する。

<方法>

- ・講義を3つのパートに分ける（適宜、映像資料を用いる）
 - ①「頭の体操」；面白おかしい素材（ゲーム、漫画、スポーツ、観光案内など）や問題に取り組み、国際関係論の基礎知識を習得する。
 - ②「本講義」；坂井のテキストに従い、詳細なレジュメを配布し講義する。
 - ③「感想記入」；知識定着のため①②で理解したこと、質問などを書く。
- ・講義で退屈・居眠りしないよう、(A) (B)の仕掛けを設ける。
 - (A)「速記バトル」；制限時間内で私と速記のスピードを競う。
 - (B)「○突クイズ」；講義中に突然クイズを出す。

<到達目標>

- ・国際関係の現実・理論に関する基礎知識の習得、日米関係の理解

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（国際関係論とはどのような学問か）
- 第2回 大相撲と国際関係論（インバウンド消費、移民、ナショナリズム）
- 第3回 ドラゴンクエストと国際関係論（中印関係、クルド人、テロリズム）
- 第4回 日本の領土問題（尖閣・竹島・北方領土、カイロ宣言、ダレス恫喝）
- 第5回 国際関係論の名著の検討（「X論文」、『外交』、『文明の衝突』）
- 第6回 主権国家（「大航海時代」、主権、ウエストファリア条約）
- 第7回 国際関係論の誕生（ツキジデスの罫、帝国主義、第一次世界大戦）
- 第8回 リアリズム（勢力均衡、パワー、国益、パワーポリティクス）
- 第9回 リベラリズム（安達峰一郎、貿易理論、民主主義平和論）
- 第10回 リアリズムの隆盛（モーゲンソー、キューバ危機、アリソン）
- 第11回 リアリズムの衰退（オストロム、ゲーム論、シェリング、公共財）
- 第12回 覇権安定論（ギルピン、覇権衰退論争、ソフトパワー、構造的権力）
- 第13回 相互依存論（トランスナショナル関係論、レジーム論、コヘイン）
- 第14回 IPEとは何か（バードン・シェアリング、湾岸戦争、日米政策協調）
- 第15回 まとめ（IPEとは何か、国際関係論の基礎知識の復習）

教材・テキスト・参考文献等

- ・参考文献 坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

成績評価方法

- ・「課題レポート100%」で評価。出席点などを加算要素とする（3%まで）

その他

- ・メリハリのある、面白くて楽しい講義を心がけます。学生を指名することはしませんので、気軽に受講してください。授業が難しい場合は要復習です。講義内容については、受講生の学習の進捗度などによって、随時調整します。